

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第七十四卷「芸術、文化、言語、文学（一の四）」

三次元有形静的芸術（建築、彫刻、工芸、手芸、服飾、着物、日本刀、
能面）

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第七十四巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、三次元有形静的芸術（建築、彫刻、工芸、手芸、服飾、着物、日本刀、能面）に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

建築家が「共感覚」の語を使用

第三編 三十歳～三十九歳

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳〜二十九歳

建築家が「共感覚」の語を使用

二〇一一年六月二十七日 起筆、攔筆、公開

建築家の佐川旭氏という方が、フリーマガジン「R25」(No.287、二〇一一年六月十六日発行)の中で、下記の通り「共感覚」に言及されている。

フリーマガジン「R25」

<http://r25.yahoo.co.jp/> (閉鎖)

↓ (二〇一八年一月八日 追記)

「新 R25」

<http://r25.jp/>

(引用始め)

「子どもの教育では、知識よりも心を育むことが重要です。心根の

大切な要素である知欲・意欲・情の三つをバランスよく育てること
で、素直で人の話をしっかりと聞く、感性豊かな子どもに育ちます。
けれど、現代は家族の関係も希薄になり、情が失われがち。生活の
なかで子どもの情を育てる家選び・家作りが重要なんです」

「大脳生理学でいう“共感覚”のようなものが重要だと私は考えて
います。これは三つの刺激を複数の感覚で捉えるもので、たとえば
“高い金属音に冷たさを感じる”ようなことを指します。“子供の情
を育む家選び”でも、この“複数の感覚”という点が重要で、“三つ
の記憶を複数の五感に刻みこめる”家なら、家族の思い出が記憶に
刻まれ、時間が経っても温かな感情を思い起こしやすいでしょう。
これが深い“情”を育むわけです」

(引用終わり)

何よりも知識を優先して動かざるを得ない職業であると思える建
築家が、「子どもの教育では、知識よりも心を育むことが重要」であ
ると述べている点は、同じ境遇にあったはずの数学者の岡潔が子ど
もの「情緒」を「知識」よりも重視すべきだと唱えた点に似ている。

私は、岡潔の思想や主張を「共感覚」的な哲学・思想として敬愛
しているが、この建築家も「大脳生理学でいう“共感覚”のような
ものが重要だ」として、「知識」以前の「心」や「情」に「共感覚」

を見ているあたりが、非常に鋭い視点だと思える。

私も仕事の中で建築家や芸術評論家に接することがあるが、このような視点を持っている文化人・学識者に出会う機会は極めて少なくなっていると感じている。数学や建築といった学問・芸術に「心」や「情」を取り入れることに挑戦し続けている文化人・学識者の数が少なくなっていることも理由にあるだろうが、学校教育や社会教育、テレビなどのマスメディアの場であまり取り上げられないこともあるのだろう。